

	<p>うに配慮した（第2号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己のあり方や現代社会における青年期の特徴，他者と共生していくための心の働きを取り上げることで，正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した（第3号）。 ・人間の考える営みや，心の働きと周囲の環境との関連性を取り上げることで，生命を尊び，自然を大切に，環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した（第4号）。 ・日本社会にまつわる例示を取り上げることで，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した（第5号）。 	<p>11～15， 20 ページ</p> <p>10， 11， 13～15， 19， 20 ページ</p> <p>12 ページ</p>
<p>第1編 第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I</p> <p>1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学問的な考察に基づいた正確な記述と，客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで，幅広い知識と教養を身に付け，真理を求める態度を養い，豊かな情操と道徳心を培うとともに，健やかな身体を養うことができるように配慮した（第1号）。 ・人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで，個人の価値を尊重して，その能力を伸ばし，創造性を培い，自主及び自律の精神を養うとともに，職業及び生活との関連を重視し，勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した（第2号）。 ・幸福や愛，正義，社会，国家に関する先哲の思想を取り上げることで，正義と責任，男女の平等，自他の敬愛と協力を重んずるとともに，公共の精神に基づき，主体的に社会の形成に参画し，その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した（第3号）。 ・先哲のさまざまな自然観に着目して丁寧に記述することで，生命を尊び，自然を大切に，環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した（第4号）。 ・日本の伝統と文化に大きな影響を与えた諸思想を取り上げることで，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した（第5号）。 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>31～36， 38～41， 43， 44， 47～49， 62， 67～74 ページ</p> <p>28～30， 59， 62， 73， 74 ページ</p> <p>26， 27， 43， 44， 58～64， 67～74 ページ</p>
<p>第1編 第3章 さまざまな人生観・倫理観・世</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学問的な考察に基づいた正確な記述と，客観性・中立性を確保した解釈 	<p>全体</p>

<p style="text-align: center;">界観Ⅱ</p> <p>1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり</p>	<p>の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。 ・幸福や愛、正義、社会、国家、フェミニズムに関する先哲の思想を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。 ・先哲のさまざまな自然観に着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。 ・日本をふくむ東洋の自然観や、災害時のボランティア活動を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第5号)。 	<p>全体</p> <p>96～99, 103, 106～112, 124, 127～130, 133, 134, 136～138 ページ</p> <p>88～95, 139～141 ページ</p> <p>138, 141 ページ</p>
<p>第1編</p> <p>第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚</p> <p>1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚</p>	<p>・学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。 ・自由民権思想、社会主義や女性解放などの社会思想、戦後思想を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。 ・先哲のさまざまな自然観に着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>185, 188, 189, 193, 199～202 ページ</p> <p>150～156, 163, 178, 179, 197 ページ</p>

	<p>を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本における独自のものの考え方や感じ方について詳細に記述し、それが外来思想とのかかわりの中ではぐくまれてきた点について丁寧に扱うことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第5号)。 	<p>ジ</p> <p>全体</p>
<p>第2編 現代の諸課題と倫理</p> <p>1節 生命</p> <p>2節 自然</p> <p>3節 科学技術</p> <p>4節 福祉</p> <p>5節 文化と宗教</p> <p>6節 戦争と平和</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮した(第1号)。 現代社会における諸課題を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮した(第2号)。 福祉や家族形態などの問題を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第3号)。 生命倫理や環境倫理など、生命と自然をめぐる現代的な諸問題を取り上げることで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第4号)。 文化と宗教の多様性、経済格差や平和の課題を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮した(第5号)。 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>223～226 ページ</p> <p>208～217 ページ</p> <p>227～235 ページ</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 重要な用語はゴシック体で示し、視覚的にとらえやすいようにして学習の効率化を図った。
- 他ページと関連事項のある箇所については、本文中に参照ページを付し、学習の相互関連を図った。
- 第1編第2章～第4章の本文では、各項の学習の手がかりとなる箇所に波線を付け、思想学習の際の手引となるように配慮した。
- 重要な概念や語句を解説する「レクチャー」を適切な箇所に設け、本文での学習の手助けとなるように努めた。
- 先哲や思想家の原典資料を適宜提示して、考える素材を提供するとともに、学習をより深く豊かなものにできるように配慮した。
- 側注部や資料中に「問い」を設定し、本文や資料から情報を読み取る技能を身に付けられるように配慮するとともに、主体的・対話的に学ぶ学習(アクティブ・ラーニング)に導くことに努めた。
- 主要な思想家の写真・略歴を示す場合や、本文内容の具体例を提示する場合などは、囲み形式で掲載して視覚的にも区別しやすいように配慮した。

- ・本文中の「コラム」や、1 ページ体裁の「エッセイ」を適切な箇所に設け、本文での学習を発展させたり、倫理的な課題について思索を深めさせたりするように配慮した。
- ・特設ページ「思考と対話」を設け、特定の概念に対する古今東西の先哲の考えを横断的に示した。
- ・第1編の各節の冒頭にはリード文を設置し、課題となる部分には下線を付け、学習の見通しを立てることができるよう配慮した。
- ・第1編の各節末には「節のまとめ」、第2編の各節末には「探究課題」を設置し、生徒が課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習に取り組むことによって学習内容を深めることができるように配慮した。
- ・前後見返しに思想史年表を提示し、思想内容を時代背景の中で具体的に学習することができるように配慮した。また、これによって、世界史・日本史と関連して学習することもできるように配慮した。
- ・口絵では、学習内容に対応した写真資料を提示し、倫理の導入学習や、学習中の相互参照が可能になるように配慮した。
- ・カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性にかかわらず学習できるように配慮した。
- ・再生紙と植物油インキを使用し、環境に配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-116	高等学校	公民科	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	倫理 701	倫理		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 学習内容と学びやすさを考慮した構成

- ・第1編「現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方」は学習指導要領をふまえ、第1章「人間の心のあり方」、第2章「さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ」、第3章「さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ」、第4章「国際社会に生きる日本人としての自覚」の4章立てとした。第1章は心理学分野の内容を盛り込み、2章、3章は同一タイトルで分割することで、内容の関連性の強調と、学習の利便性に配慮した。
- ・第2編「現代の諸課題と倫理」は「生命」「自然」「科学技術」「福祉」「文化と宗教」「戦争と平和」の6節で構成し、第1編の内容を活かしながら、豊富な資料とともに現代的な諸課題について探究することができるようにした。
- ・参照ページや章をまたいだ内容の問いを設定することで、学習の相互関連を図った。また、特設ページ「思考と対話」を設置し、「幸福」「愛」「正義」などの概念に対する古今東西の先哲の考えを、章をまたいで横断的に示した。
- ・外部リンク(Dマークコンテンツ)で「公共」の既習事項を確認することができるようにした。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現

- ・第1編の各章の導入には、リード文と写真、導入エッセイからなるページを設置し、学習内容と現代に生きる生徒たちとの連関について意識することができる内容にした。また、第2編の冒頭では、それまでの学習内容をふまえた上で、現代社会での様々な課題を認識し、その解決のための思索を深めることができるよう、「倫理」における探究のポイントを示した。
- ・第1編の各章の冒頭節(一部冒頭以外)は、「人間」「哲学」「宗教」など、その章に関連する大まかな学習内容を括る言葉、概念を改めて考えさせる節として位置づけ、物事の根本から主体的に思考する態度を養えるよう配慮した。
- ・第1編の各節の冒頭にはリード文を設置し、課題となる部分には下線を付け、学習の見通しを立てることができるよう配慮した。
- ・第1編の各節末には「節のまとめ」、第2編の各節末には「探究課題」を設置し、生徒が課題の発見と解決に向けて主体的・対話的に学べるよう配慮した。
- ・「思考と対話」では、具体的な課題を設定して、生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができるよう配慮した。
- ・資料を充実させ、解説や問いを付すことで、先哲やテキストとの対話や理解を促すとともに、そこから情報を読み取る技能を身に付けられるよう配慮した。
- ・学習内容を身近な話題に落とし込んだコラムやエッセイを充実させることで、生徒の学習意欲を高め、自立的に学習できるよう配慮した。

2. 対照表

(例)

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方	A－(1)，(2)	7～205	64
第1章 人間の心のあり方	A－(1) ア(ア)，(オ)，イ	8～23	4
1節 人間とは何か	(ア) (イ)		
2節 人間の心の働き			

第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I 1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 キリスト教 5節 イスラーム 6節 仏教 7節 中国の思想 8節 芸術	A - (1) ア (イ) (ウ) (エ), (オ), イ (ア) (イ)	24~81	21
第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 II 1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観・言語観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり	A - (1) ア (イ) (ウ) (エ), (オ), イ (ア) (イ)	82~147	21
第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化 7節 国際社会に生きる日本人の自覚	A - (2) ア (ア) (イ), イ (ア)	148~205	18
第2編 現代の諸課題と倫理 1節 生命 2節 自然 3節 科学技術 4節 福祉 5節 文化と宗教 6節 戦争と平和	B - (1) ア, (2) ア	206~235	6
		計	70